

(社)シャンティ国際ボランティア会 カンボジア事務所
伝統文化事業(2009年～2011年)

1. 事業名

伝統文化事業

2. 対象地域の教育状況・事業の背景

かつて、カンボジアでは、寺院はクメール文化伝統継承や自然保護活動を、宗教的实践として伝統的に行い、重要な役割を担っていた。文化・伝統的活動も世代を超えて伝えられ、各寺院は独自の演奏家、舞踊団、舞踊ステージなどを所有していた。クメールの人々は熱心な仏教徒として戒律を守り、また寺院の教えを学び実践した。しかしながら、長い内戦やポルポト時代の虐殺や破壊によって、多くの寺院、経文や文化財、そして僧侶が失われ、寺院におけるコミュニティへの教育的機能も低下した。

現在、宗教的实践を通じてコミュニティの結束を高めるために必要な運営管理能力について、深い知識を持ち合わせている寺院が少ないのが現状である。そのため、寺院は文化保全や自然保護活動に対して果たしてきた伝統的、社会的役割を担いきれなくなっている。

また、内戦後の急激な経済発展や都市化にともない、カンボジア独自の文化や、仏教的倫理観を身につけることなくきた新世代の人々は、仏陀の教えについて浅い知識しか持たない。そのため、仏教の教えの実践がおろそかになり、若者のモラルの低下(薬物使用、暴力、風紀の乱れなど)が社会的な問題となっている。伝統文化への関心が薄れることにより、伝統文化継承・保存だけの問題でなく、クメールとしてのアイデンティティーの喪失にも繋がる。そして、環境保全にたいする意識の低さから、内戦後の不法伐採・輸出だけでなく、自然保護の大切さを理解していない人々による土地や水田の売却により森林の減少が続いている。そのためクメール文化や社会の復興、そして自然保護には、カンボジアの精神文化や伝統的社会的基盤と成っている仏教が重要な役割を果たすと期待される。

3. 他の援助機関の動向

コミュニティ住民を救済し自助努力を促そうと様々な取り組みを行っている僧侶もいる。仏教系の NGO は、きわめて少ないが、その中でも寺院を通じて社会開発や自然保護にとり組んでいる NGO は 10%未満といわれている。以下に仏教関係 NGO 活動を紹介する。

1. Buddhism For Development (ハットンバン州) 1993 年よりで、道徳活動、自然保護活動(植林)、米銀行などの自助活動や識字教室などの活動を通じて、地域の活性化を図っている。
2. Darmaduta Association 遠隔地の貧困層を対象とした公衆衛生や健康管理の活動を行っている。
3. Santisena Association スバイリエン州で、自然保護・野生動物保護活動や、道徳教育、農村開発活動を行っている。
4. Buddhism For Development(コンポントム州) 寺院周辺で、農村開発、平和教育、自然保護活動を行っている。小規模融資や米銀行なども展開している。

4. プロジェクトの必要性、妥当性

20 年におよぶ内戦と大量虐殺は、カンボジアを徹底的に破壊した。内戦後の平和を得た現在、さらに独自の伝統文化、そして自然環境を失う危機に瀕している。寺院と自然保護活動、寺院と伝統文化、寺院とコミュニティというそれぞれの密接な関係性の上に成り立っている寺院の社会的役割を強化するため、伝統文化事業課では以下の 3 つの活動を計画している。

① 仏教寺院の人材育成

内戦の傷跡は寺院の運営管理体制にも残る。多くの僧侶および経文が失われたことにより、仏教における知

識だけでなく、寺院管理(文化遺産管理も含め)について指導を受ける機会がなく、それゆえ、寺院のコミュニティにおける教育機能および運営管理能力欠如が問題となっていた。そのため、伝統文化事業課は、日常生活における仏陀の教えの実践から、寺院管理までカバーした内容のセミナーや研修を開催し、寺院関係者の能力強化に努めてきた。コンポントム州およびスバイリエン州の宗教局局長や州管区僧長からの強い要請を受け、同州・郡管区僧長や宗教局スタッフを対象とし、寺院の運営管理能力強化をめざし、より発展した講義内容のセミナーや研修会の継続的開催を行う。こうしたセミナーや研修の開催を通じ、コミュニティの中心的機能をになっている寺院が、社会復興に向け、重要な役割を果たせるよう支援を行う。

② 仏教寺院を通しての伝統文化保存

寺院はかつて、文化遺産を管理し、文化的なリソースの蓄え、そして学びの場所であった。音楽一つをとっても、寺院は、伝統楽器、演奏家、舞踊団、舞踊ステージなどを所有し、コミュニティにおける文化センターのような役割を担い、文化伝統的活動が世代を超えて継承されてきた。しかしながら、内戦による寺院の破壊、僧侶が失われたことにより、現在では、伝統文化の継承という寺院の社会的役割が低下もしくは機能が失われている。そして、都市化や現代化が進む中、カンボジア人が独自の文化を取り戻すことは容易でない。クメール伝統文化の保存を進めることは、悲劇の歴史の中でカンボジア人が無くしたものを再構築し、心を養い真の平和を促進することにつながる。

伝統文化事業課は、伝統的に寺院が伝統文化保全活動を行ってきたことに着目し、上記人材育成を行うコンポントム州およびスバイリエン州の州・郡管区僧長、寺委員会、宗教局スタッフを対象としたセミナーやワークショップを開催し、伝統文化の継承に対して果たしていた寺院の社会的役割を再確認し、強化を図る。こうしたセミナーやワークショップの開催を通じ、コミュニティの中心的機能をになっている寺院が、文化復興に向け、重要な役割を果たせるよう支援を行う。

③ 仏教寺院を通しての自然保護活動

内戦により、森林は敵が隠れる場所となるので伐採されてしまったり、内戦後も国内情勢の混乱の中、大規模な不法伐採・輸出がされ、森林破壊が深刻な問題となっている。森林破壊により、森林の持続可能な利用がされなくなり、森林の保水機能が失われ、人々の生活にも影響を及ぼし始めている。対象地域としているスバイリエン州は、森林破壊の最もすすんでいる州のひとつである。また、コンポントム州(サンボープレイクック遺跡地区)では、内戦により、遺跡と森林の破壊があり、木々は銃弾などで傷つき、放っておけば廃れるという状態である。

伝統文化事業課は、伝統的に寺院が宗教的实践として自然保護活動を行ってきたことに着目し、行政と協力し、宗教関係者、コミュニティ委員会を対象としたワークショップを開催する。

また、ワークショップを通じ、寺院が森林保全に対して果たしていた伝統的役割を再確認し、自然保護の意義の理解を促進する。そして、自然保護活動の実践として、寺院を中心としたコミュニティで植林活動を行う。植林活動を通して、ワークショップ参加者(点)から活動の実践によりコミュニティ(面)へ展開し、コミュニティの結束を高めることができ、より持続可能な活動となることが期待される。

5. SVA が取り組む意義

SVA 伝統文化事業課の活動は、カンボジア社会における精神面・道徳面の教育およびクメール伝統文化の保存という意味での『仏教』の復興と発展を推進している政府の方針に合致している。また、2015年までに非識字を解消するといEFA 戦略計画として、教育の質の向上とより良い市民の育成を行っている宗教省、教育省、文化芸術省、3省の方針とも一致する。また、自然保護活動は、政府の寺院やコミュニティの参画をえての植林政策と一致する。

6. 対象地域、受益者数

新事業対象地域を、スヴァイリエン州とコンポントム州 2州とする。

州	直接的受益者	受益者の内訳(人)	間接的受益者
スヴァイリエン州	4,377人	僧侶(300)、寺委員会(87)、宗教局の職員(14)、コミュニティー指導者と住民(3,976)	僧侶 100 人、スヴァイチュルン郡の7つのコミュニティーに住む 27,387 世帯
コンポントム州	27,53 人	僧侶(100)、寺委員会(50)、宗教局の職員(16)、コミュニティー指導者と住民(2,587)	プラサット・サンポー郡の僧侶 88 人、サンポーコミュニティーの 15 カ村の住民 11,635 人
合計	7,130 人		

※自然保護活動について、スヴァイリエン州では2006年から、コンポントム州では2008年から実施されている。

7. 実施期間

2009年1月1日～2011年12月30日

8. ハンドオーバーする相手と持続可能性

(1)カウンターパート

1. カンボジア仏教総管長事務所
2. 宗教省
3. 文化芸術省
4. 環境省
5. スヴァイリエン州、コンポントム州 州管区僧長
6. スヴァイリエン州、コンポントム州 州宗教局
7. スヴァイリエン州、コンポントム州 州文化芸術局
8. スヴァイリエン州、コンポントム州 州教育局
9. スヴァイリエン州、コンポントム州 州農業局
10. Buddhism For Development
11. Darmaduta Association
12. Santisena Association
13. 芸術大学
14. 文化芸術省舞台芸術局

(2)持続可能性

プロジェクトの持続可能性を考慮し、寺院、寺委員、行政、学校に積極的な参画を促し、連携を深め、事業を展開している。SVA 事業終了後、寺院を中心としたコミュニティーが独自で、活動を継続できるよう、コミュニティー委員会を対象各州に組織している。指導者への研修、セミナーなどを通じて、必要な情報や技術を提供し、研修後のモニタリングでフォローアップをしている。理論の実践としての植林活動を通じ、研修受講者への学習内容の理解の定着を図りながら、コミュニティー全体への学習の波及効果を図る。また近隣で活動する他の NGO と連携を深め、より持続可能な事業の実施体制を取っている。

9. 上位目標

カンボジア全ての仏教寺院で伝統文化保存や自然保護活動が行われる。

10. プロジェクト目標と指標

目標

指標:

- トレーナー(文化宗教局の職員、中心となる寺院の僧侶、コミュニティーの

<p>対象地域において、中心となる寺院が、文化保存や自然保護活動を率先して行う。</p>	<p>指導者)の数が増加する</p>	
<p>11. 活動と期待される成果 <活動> 1-1. 仏教寺院を通じた文化遺産保存 <ul style="list-style-type: none"> 僧侶の指導者、中学校の生徒を対称に、クメールの伝統、文化、芸術の保存に関する研修を行う。 僧侶を対象に、文化遺産保存における仏教寺院の役割に関する研修を行う。 僧侶とコミュニティーの指導者を対象に、訪問研修を行う。 1-2. 仏教寺院を通じた自然資源保護 <ul style="list-style-type: none"> 僧侶と住民を対象に、自然環境保護に関する研修を行う。 スヴァイリエン州、コンポントム州において、苗木育成所と植樹活動を支援する。 1-3. 僧侶の指導者を対象に、寺院の運営・管理に関する研修を行う。</p> <p><期待される成果> 1-1. 文化遺産保存の重要性の理解促進 1-2. 自然資源保護の重要性の理解促進 1-3. 僧侶の指導者と寺委員会委員の運営能力の向上</p>	<p><活動> 2-1. 対象地域でのネットワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> ネットワークの構成員を選定する。 ネットワーク組織図を作成し、各自の役割を決定する。 定期会合を開催し、覚書を作成する。 研修会、セミナー、訪問研修(1-1、1-2)を実施する。 植林活動を促進する。 関係当局の職員へ報告する。 2-2. ネットワーク構築の支援 <ul style="list-style-type: none"> 研修、セミナー、訪問研修(1-1、1-2)の準備・参加・助言を行う。 植林活動に参加し、助言をする。 支援ネットワークの構成員を選定する。 ネットワーク組織図を作成し、各自の役割を決定する。 定期会合を開催し、覚書を作成する。 ネットワーク構成員(2-1)との合同会合を開催する。 <p><期待される成果> 2-1. 対象地域において、活動を実施するネットワークが構築され、強化される。 2-2. 上級僧侶や、文化宗教局職員が行う文化保存、自然保護活動を支援するネットワークが、州と郡レベルで構築され、強化される。</p> </p>	
<p>12. 実施体制 <SVA> 投入 2~3 名 副所長 イー・トン 調整員 ハム・ビチュット 職員 採用予定</p>	<p><行政></p> <ul style="list-style-type: none"> 州宗教局 州文化芸術局 州教育局 州農業局 	<p><コミュニティー></p> <ul style="list-style-type: none"> 寺委員会 コミュニティー委員会

13. 年間スケジュール

項目	伝統文化事業 (2009-2011)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. 仏教寺院を通しての伝統文化保存													
1.1	伝統文化保存に関するワークショップ					■							
1.2	文化遺産保存における仏教寺院の役割についてのセミナー												■
1.3	研修ツアー		■										
2. 仏教寺院を通しての自然保護活動													
2.1	自然保護に関するワークショップ						■						
2.2	種の収集	■	■	■	■	■	■				■	■	■
2.3	植樹活動、苗木の配布						■	■					
2.4	樹木や苗木の世話	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3. 仏教寺院の人材育成													
3.1	寺院運営管理に関する研修					■	■	■					
4. レポート作成													
4.1	年度中間報告						■						
4.2	来年度の計画申請書									■			
4.3	年度最終報告												■

14. モニタリング・報告の方法

関係機関と連携をして、1年目の2009年度は、2ヶ月に1回モニタリング調査を行う(年間24回) 次年度からは、1ヶ月に1回モニタリングを行う(年間12回)。

モニタリング調査の目的:

- 実施した活動の進捗状況をチェック
- PDM指標に沿った評価を行うためのデータ収集
- 活動のフォローアップ(アドバイスや技術指導を行う)
- 事業を見直し、改善を図る

調査結果をまとめた報告書は、SVA、文化芸術省、州文化芸術局、宗教省、州宗教局などに提出する。

15. 評価計画

- 評価は、年度ごとに中間評価と最終評価を行う(13.年間スケジュール参照)
- 評価は、規定の評価フォーマットを使用
- 評価報告書は、SVA、文化芸術省、州文化芸術局、宗教省、州宗教局などへ提出